

福島県猪苗代町 桜川遺跡

—2023 年度試掘調査の概要—



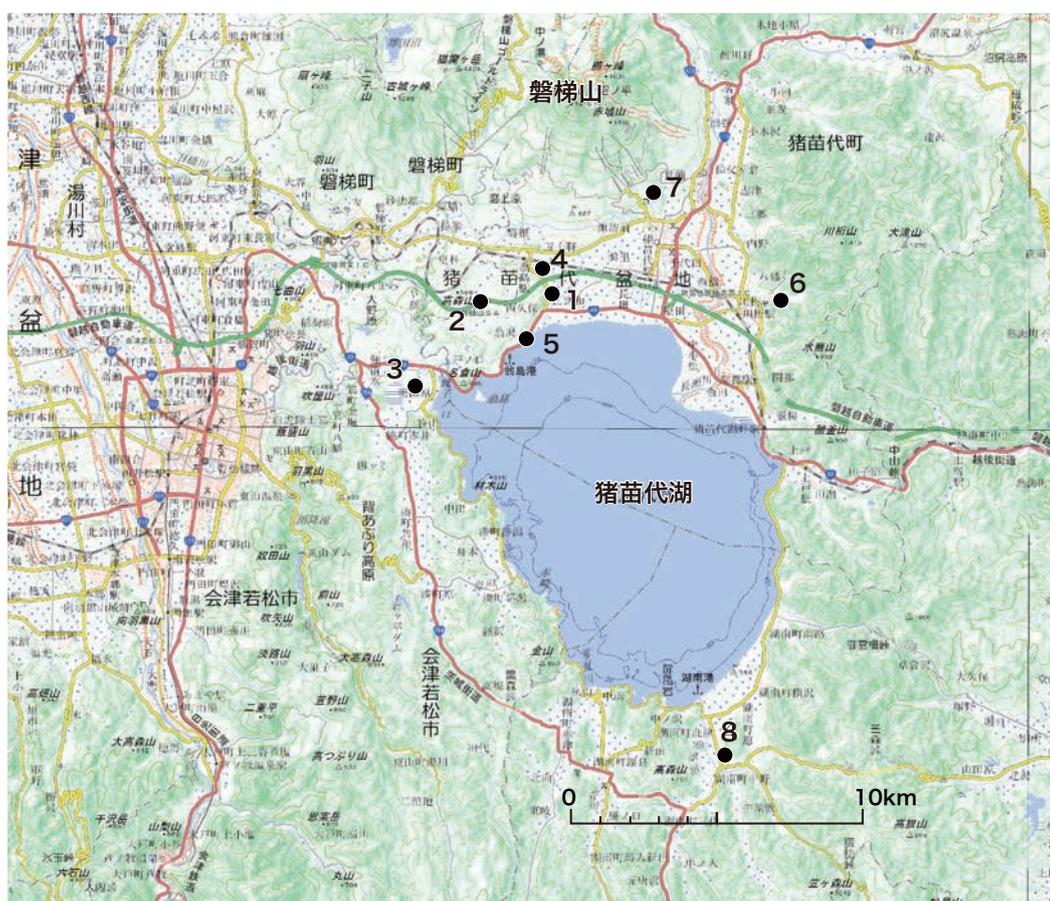
学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科
工藤雄一郎
学習院女子大学考古学研究会

1. 猪苗代湖周辺の先史時代の人類活動

福島県猪苗代湖周辺には数多くの先史時代遺跡が存在し、古くから人々の活動の舞台となってきた。発掘調査が実施された主要な遺跡では、後期旧石器時代前半期（約 34000 ～ 32000 年前）を中心とした会津若松市の笹山原遺跡群 No.16 遺跡、後期旧石器時代終末～縄文時代草創期（約 16000 年前）の猪苗代町林口遺跡、大神遺跡、縄文時代中期（約 5000 ～ 4300 年前）を中心とした大規模な集落遺跡であり出土遺物が重要文化財に指定された磐梯町法正尻遺跡、磐梯山麓の磐梯神社の南側に広がる縄文時代中期の遺跡である猪苗代町西峯遺跡などが知られている。また、猪苗代湖の南岸には、縄文時代後晩期を中心とした郡山市山ノ神遺跡がある。この遺跡では農地整備事業の際に行われた発掘調査で、水田面の下の低湿地から丸木弓などの有機質遺物も発見されている。

猪苗代湖周辺には多数の湿原や埋没谷が存在することから、良好な低湿地遺跡が存在する可能性が高いが、まだまだ調査されていない遺跡がほとんどである。台地・丘陵上の集落遺跡とあわせて隣接する低湿地遺跡の調査が行えるような遺跡が確認できれば、今後、猪苗代湖周辺における先史時代の人と環境との関係を明らかにするための総合的研究へと発展させることができると考えた。

そこで、科研費の研究の一環として、2019 年度から会津若松市の笹山原遺跡群 No.16 遺跡及びそれに隣接する低地で、古環境分析を目的とした調査・研究を学習院女子大学の工藤と郡山女子大学の會田容弘氏と共同で進めている。また、2022 年度からは学校法人学習院の中期計画研究経費（若手・中堅研究）「福島県猪苗代湖周辺における先史時代の文化史構築のための基礎的研究」（研究代表者：工藤雄一郎）の採択を受け、その研究の一環として、猪苗代町に所在する桜川遺跡の学術的調査を 2023 年度から開始した。



猪苗代湖周辺の主要な先史時代遺跡

1. 桜川遺跡, 2. 法正尻遺跡, 3. 笹山原遺跡群 No.16 遺跡, 4. 大神遺跡, 5. 休場遺跡, 6. 林口遺跡, 7. 西峯遺跡, 8. 山ノ神遺跡
図は国土地理院発行 20 万分の 1 電子地形図（新潟・福島）を使用。

2. 桜川遺跡の位置とこれまでの調査

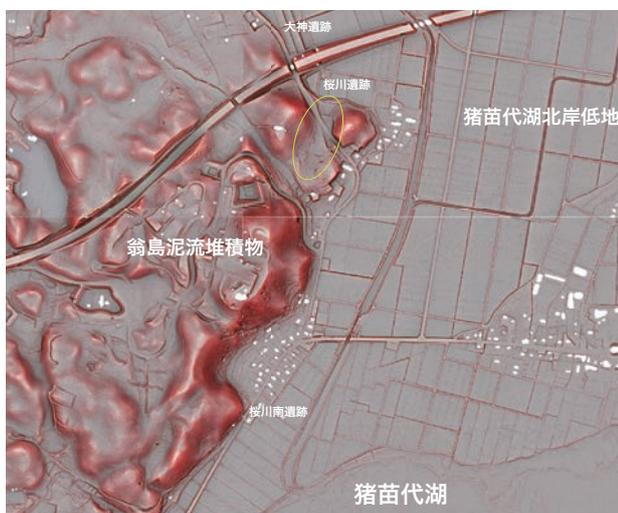
桜川遺跡は福島県耶麻郡猪苗代町に所在する縄文時代を中心とした遺跡である。遺跡は磐梯山の山体崩壊によって形成された翁島泥流堆積物が形成する丘陵の末端部に位置しており、丘陵部から猪苗代湖北岸低地へと続く、丘陵の小山の合間に形成された緩やかな斜面地に立地している。翁島泥流堆積物が形成する丘陵の末端には遺跡が多く残されている。桜川遺跡のすぐ近くには、東北横断自動車道を挟んですぐ北側に大神遺跡が存在し、縄文時代草創期末の尖頭器や土器が発見されている。また、桜川遺跡の南側には、縄文時代前期から縄文時代後晩期の遺物が出土している桜川南遺跡などがある。

桜川遺跡は縄文時代の遺物の散布地として古くから知られており、1978年には猪苗代町史編纂事業に伴い、猪苗代町教育委員会によって発掘調査が行われた（詳細な調査地点は不明、猪苗代町教育委員会、1982）。また、1991年に遺跡中央を分断するように通る県道翁島停車場線の拡幅工事が行われた際に、記録保存のための発掘調査が行われている。これまでの発掘調査や表面採集によって、縄文時代前期を中心とした土器や石鏃、珧状耳飾などが出土している。特に1991年の発掘調査では縄文時代前期前葉の大木2a式の良い資料が多数出土した（猪苗代町教育委員会、1993）。以上のことから桜川遺跡は猪苗代湖周辺における縄文時代前期の人類活動を知る上で極めて重要な遺跡である。



桜川遺跡の位置と磐梯山との関係

猪苗代湖北岸から桜川遺跡を望む。黄色の▼印の位置に桜川遺跡がある。撮影はドローンによる（工藤雄一郎撮影，2023年4月）



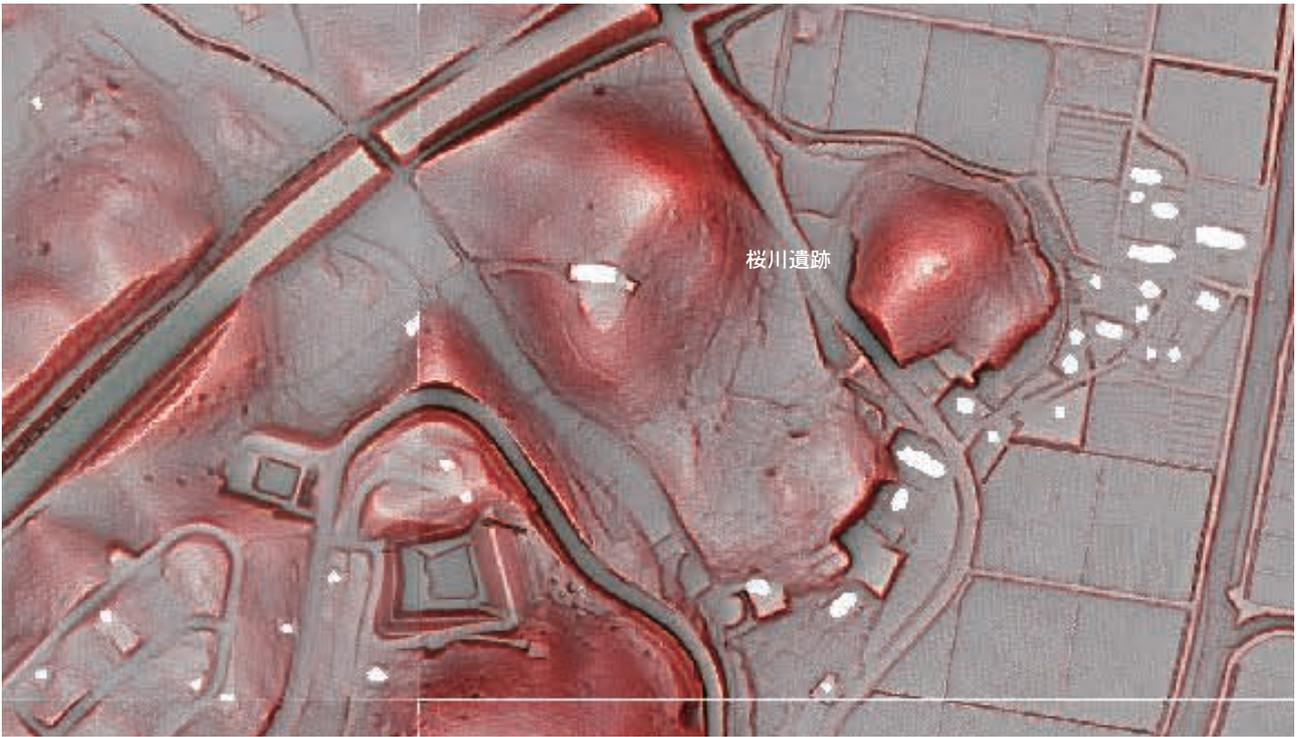
桜川遺跡周辺地形図（赤色立体地図）

国土交通省国土地理院が管理する航空レーザ測量データを利用した。赤色立体地図は（株）アジア航測の特許技術を使用している。



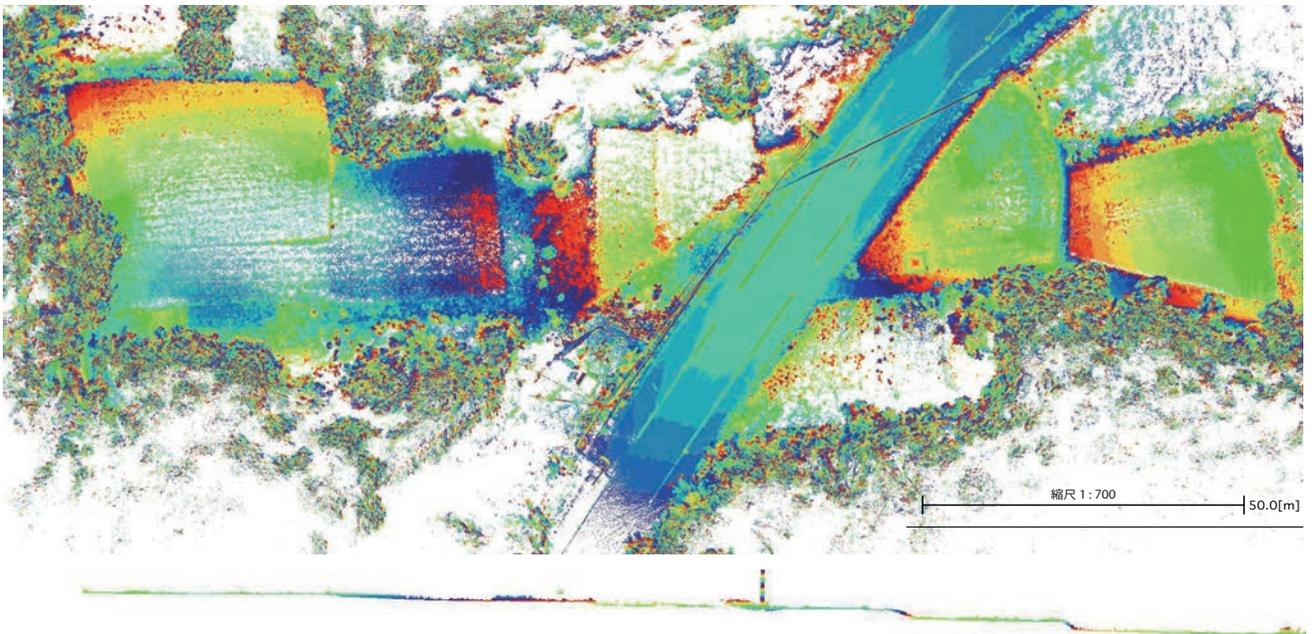
桜川遺跡の立地と現況

北側方向に磐梯山を望む。写真中央の道路で南北に分断された畑地全体が遺跡。撮影はドローンによる（工藤雄一郎撮影，2023年4月）。



桜川遺跡周辺地形図（赤色立体地図）

国土交通省国土地理院が管理する航空レーザー測量データを利用した。
赤色立体地図は（株）アジア航測の特許技術を使用している。



桜川遺跡周辺の地形の段彩図

ハンディー型レーザーによる地形測量図。（株）アジア航測による。

3. 2023年度の試掘調査の概要

2023年度は、2023年9月4日から9月13日までの10日間で桜川遺跡の試掘調査を実施した。遺跡の現状は畑地であり、畑を作る際に地形の一部が改変されている。表面採集では遺物が県道の北側・南側の両方から発見されており、遺跡は丘陵に挟まれた緩斜面地全体に広がっていると考えられるものの、地形改変の影響も考えられ、遺物包含層がどの程度残っているのか不明瞭であった。そこで、1991年の道路拡幅の際の発掘調査地点に近いと思われる県道のすぐ脇に第1トレンチ（T1）を設定し、遺物包含層の残存状況を確認することとした。また、将来的に猪苗代湖北川低地の近くまで遺跡が広がっているかどうかを確認することも目的として、低地へと続く一段低い畑に第2トレンチ（T2）を設定して試掘調査を行った。2023年度の試掘調査面積は合計36㎡である。調査区の概要は以下のとおりである。

9月4日：発掘調査機材の搬入，基準点と調査区の設定。

9月5日：1.5×4.0mの試掘トレンチ（T1南）を設定し，調査を開始。Ⅱ層を中心に縄文時代前期の土器が出土することを確認。

9月6・7日：T1を北側に4m拡張（T1北）。一段下の畑に調査区を設定し，T2（1.5×4.0m）を設定。

9月8日：T1を東側に拡張（T1東：1.5×4.5m）。

9月9・10日：T1をさらに西側に拡張（T1西：1.5×3m）。東側にも拡張（T1東北：1.5×4.5m）。

9月11日：Ⅳ層で確認された縄文時代の土坑の調査を完了し，土層断面を記録。

9月12日：埋戻し完了。

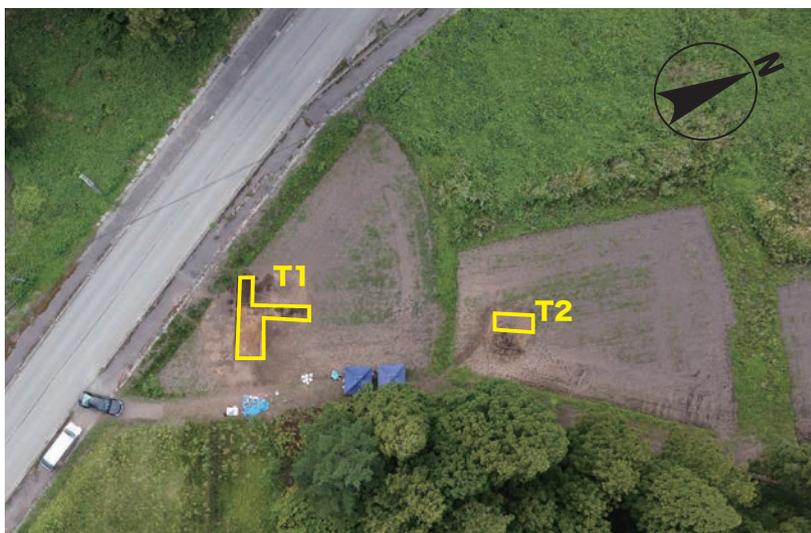
9月13日：機材と集会所の片付け，撤収。大学への機材と遺物の搬入

以上の試掘調査の結果，T1には良好な遺物包含層の残存が確認できたため，トータルステーション（TS）を用いて遺物の位置情報を記録した。2023年度の調査では，10日間の調査で36㎡を発掘し，縄文土器片を中心に合計約500点の遺物を取り上げた。



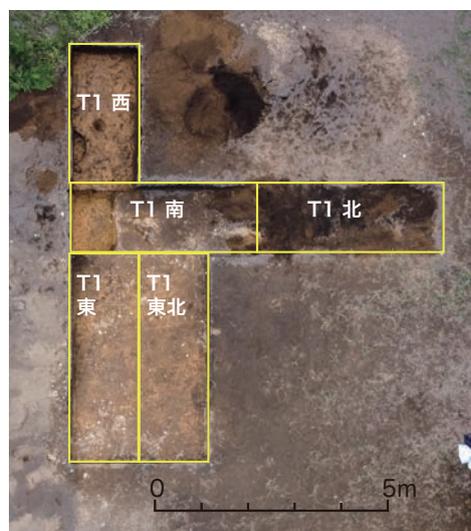
試掘トレンチ T1 の設定（9/4）

写真中央左のテーブル部分。南北方向に1.5×4.0mの試掘トレンチ（T1南）を設定し，遺物の出土状況をみながら順次範囲を拡張した。



桜川遺跡のトレンチ配置図と T1 の拡張区の位置

(T1: 30.0㎡, T2: 6.0㎡)



4. T1 の調査



桜川遺跡 T1 の遺物分布図

黄色：土器，青：石器



I層（表土・耕作土）

II a 層 黒褐色土層（沼沢パミスを含む）

II b 層 黒褐色土層

III層 黒色～黄褐色土層

IV層 黄褐色ローム層（漸移層，黒色土が混じる）

V層 黄褐色ローム層

桜川遺跡 T1 南壁セクション

上の図の赤線部分

桜川遺跡の T1 では、表土・耕作土である I 層からも多数の縄文土器が出土しているが、これは主に畑の耕作によって巻き上げられたものであり、II a 層以下が本来の縄文時代前期以前の遺物包含層にあたる。II a 層には福島県大沼郡金山町にある沼沢火山（沼沢湖）から噴出した沼沢パミス（Nm-NK、約 5400 年前）が含まれる。

今回の T1 の試掘調査では、II a 層・II b 層から最も多くの遺物が出土し、III 層からも遺物が出土した。出土した土器では縄文時代前期前葉と考えられる土器片が多い。石器類では、石鏃や石皿などの石器類も出土した。T1 で取り上げた遺物は、縄文土器片 369 点、石器 46 点などである。また、合計 9 箇所の土坑が確認された。



T1 西での遺物出土状況 (9/9)

拡張した T1 西では II a 層・II b 層を中心に最も多くの土器片が出土した。



T1 トレンチでの遺物出土状況

(網目状燃糸文の土器片) (9/9)



T1 トレンチでの遺物出土状況

(羽状縄文の土器片) (9/9)



9/7 T1 トレンチでの調査風景



9/8 T1 トレンチでの調査風景



9/9 T1 トレンチでの調査風景



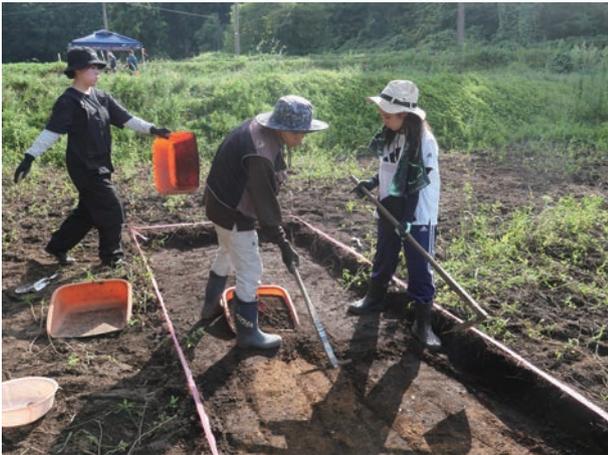
9/11 T1 トレンチでの調査風景

T1 の剥片集中の検出状況

一方、T1 の東側の拡張区（T1 東北）で、Ⅲ層～Ⅳ層中から頁岩製の剥片の集中を確認した。大きさ 2cm 以下の剥片が多く、石器製作（調整加工）に伴う剥片と考えられるが、時期を示すような遺物は出土していない。トータルステーションで 20 点ほど点を記録して取り上げ、残りは堆積物ごと採取して持ち帰った。今後、水洗選別によって剥片を回収する予定である。なお、Ⅰ層（耕作土）の一括資料であるが、ナイフ形石器（？）が 1 点確認されている。



5. T2 の調査



9/7 T2トレンチでの調査風景



9/9 T2トレンチでの調査風景



T2 完掘状況



T2 南壁セクション 上の図の赤線部分

- I層 (耕作土)
- III層 黒色～黄褐色土層
- IV層 黄褐色ローム層
- V層 黄褐色ローム層

T2では試掘調査の結果、整地して畑を作った際に堆積物が大きく削平されていたことがわかり、T1で見られたII層が完全に失われていたため、主要な遺物包含層は残っていないことが明らかとなった。T2のIII・IV層中では合計5箇所の土坑が検出されたが、これらは本来存在したII層形成時に掘り込まれたものと推定される。これらの土坑内からは縄文時代前期の土器片が出土したが、T2での遺物総数は38点と少なかった。

6. 調査の様子



9/4 T1 トレンチの設定



9/5 T1 トレンチで遺物の出土を確認



9/5 T1 トレンチでの調査で取り上げた遺物



9/6 雨天のため土器洗い作業を行う



9/8 T1 トレンチでの調査風景（雨のため一時的にテントの下で待機）



9/8 T1 トレンチでの調査風景



9/10 T1 トレンチでの石器の出土



9/11 T1 トレンチでの石器の出土



9/10 T2の埋戻し作業



9/11 ジョレンによるダメ押し（遺物が出土しないことを確認する作業）



9/11 郡山女子大学の會田容弘先生と学生らの調査見学



9/11 郡山女子大学の會田容弘先生と学生らの調査見学



9/12 T1の埋戻し作業の様子



9/12 T1の埋戻し作業の様子



9/12 T1の埋戻し完了



9/12 発掘調査機材の洗浄、片付け

7. 2023年度の調査で出土した遺物の整理作業と調査研究

2024年2月現在、学習院女子大学考古学研究会のメンバーを中心となって、学習院女子大学内において桜川遺跡で出土した遺物の注記や土器の拓本採取、断面実測などの整理作業を進めている。

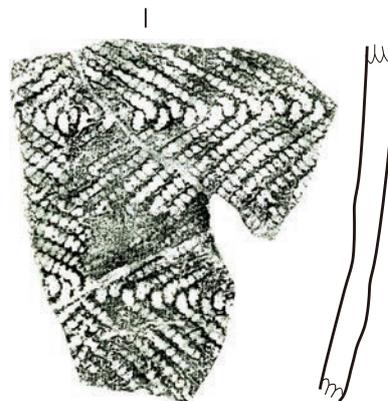
以下に、学習院女子大学考古学研究会のメンバーがこれまでに拓本・断面実測、写真撮影を行った資料の一部を紹介する。出土した縄文土器には羽状縄文、葺瓦状撚糸文、網目状撚糸文、並行沈線文、波状文などが施された土器などがあり、縄文時代前期前葉の土器が多い。また、石器には石鏃、石匙、楔形石器などがある。桜川遺跡の発掘調査は今後数年かけて実施する予定であり、正式な発掘調査報告書はその後に刊行する計画を立てている。



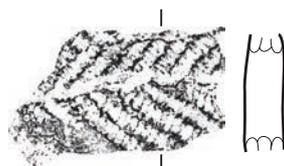
注記作業の様子



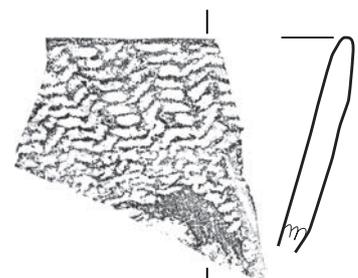
土器片の断面実測と記載作業の様子



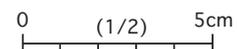
SA23-349 T1 西 II b 層



SA23-54 T1 南 III 層

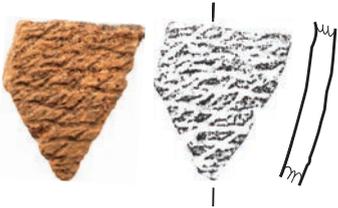


SA23-5 T1 南 II b 層

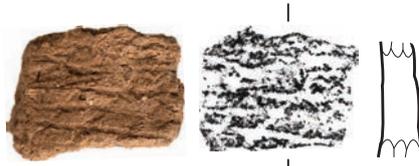




SA23-305 T1 西 II b 層



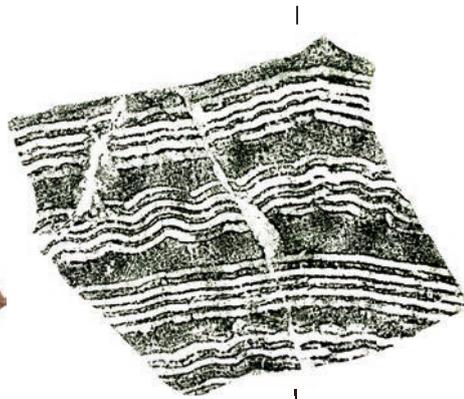
SA23-138 T1 東 II b 層



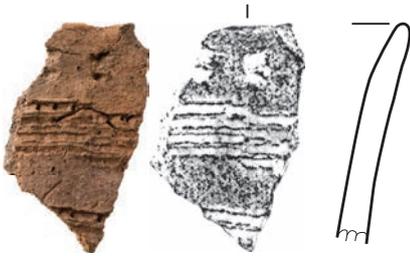
SA23-300 T1 西 II b 層



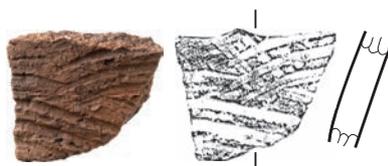
SA23-308
T1 西 II b 層



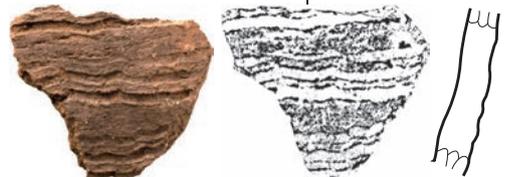
SA23-35 T1 南 III 層上面



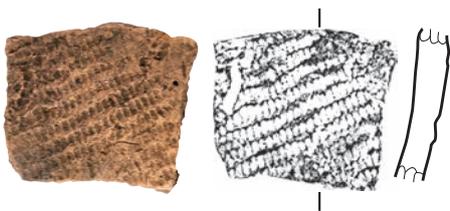
SA23-T1 一括



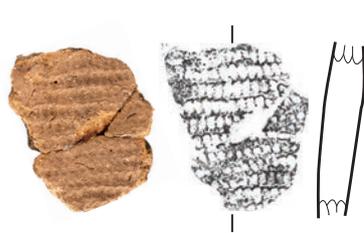
SA23-353
T1 西 II b 層



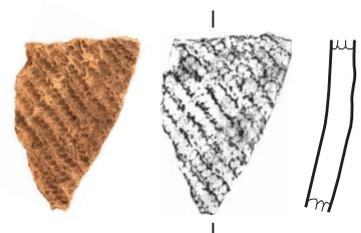
SA23-203 T1 西 II a 層



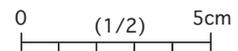
SA23-316 T1 西 II b 層



SA23-110
T1 東 II a 層



SA23-48
T1 南 III 層上面





調査研究：土器付着炭化物の分析



土器付着炭化物の付着状況
(SA23-24, 外面付着炭化物) ※金属製スパテルの位置から採取

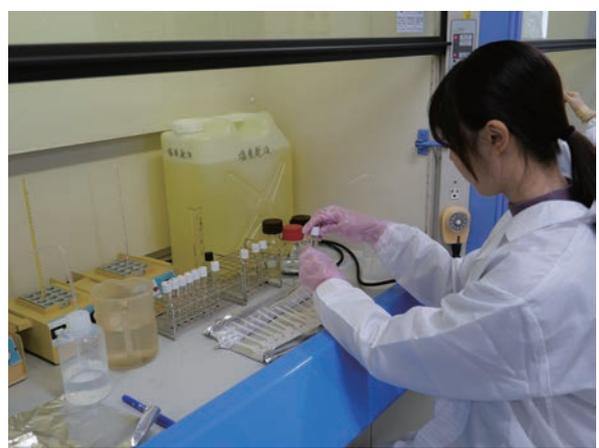
遺跡の時期を明確化するため、良好な炭化物が付着していた土器については放射性炭素年代測定を実施する予定であり、サンプリングや測定前の化学処理（酸-アルカリ-酸処理）など、測定のための作業を進めている。



土器付着炭化物の採取の様子
(SA23-106, 内面付着炭化物) ※金属製スパテルの位置から採取



土器付着炭化物の採取の様子
土器の正確な年代を明らかにするため、炭化物を採取して年代測定を行う。数mgの量があれば年代測定が可能である。



土器付着炭化物の化学処理（AAA 処理）の様子
放射性炭素年代測定を行うまえに埋没中に吸着した炭素を含む汚染物（炭酸塩や腐植酸、フミン酸など）を除去するための作業。

参考文献

猪苗代町教育委員会（1993）『桜川遺跡・大神遺跡』猪苗代町文化財調査報告第13集，猪苗代町教育委員会
猪苗代町教育委員会（2005）『猪苗代町文化財探検マップ 磐梯王国』猪苗代町教育委員会
猪苗代町市史編さん委員会（1982）『猪苗代町史 歴史編』猪苗代町史出版委員会
財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部（2014）『常磐自動車道遺跡調査報告 70 朴木原遺跡・新田遺跡』
福島県教育委員会

学術調査の実施にあたって，猪苗代町教育委員会の小椋正久氏から大変多くのご支援とご指導をいただきました。土地所有者の土屋康昭氏・土屋正幸氏には格別のご配慮をいただきました。また，桜川・行津地区の区長の田巻敏徳氏には桜川集会所を発掘調査期間中の休憩所として利用するにあたって便宜を図っていただきました。郡山女子大学の會田容弘先生からは発掘調査機材をお借りしました。記してお礼申し上げます。

報告書抄録

ふりがな	さくらがわいせき							
書名	桜川遺跡							
副書名	2023年度試掘調査の概要							
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	工藤雄一郎							
編集機関	学習院女子大学考古学研究会							
所在地	〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1							
発行年月日	2024年2月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さくらがわいせき 桜川遺跡	福島県耶麻郡猪苗代町大字 磐根字土合1588-1, 1591	74080	55	37°32'28"	140°03'47"	2023/9/4~ 2023/9/13	36.0㎡	学術目的
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
桜川遺跡	散布地	縄文時代前期	土坑	縄文土器, 石器				



福島県猪苗代町 桜川遺跡

—2023 年度試掘調査の概要—

印刷・発行日 2024 年 2 月 29 日
編集・発行 学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科
工藤雄一郎・学習院女子大学考古学研究会（任意団体）
〒165-8602 東京都新宿区戸山 3-20-1